インドの少女300人 過酷な実態映像化

10/22 T

貧困や性差別…

インドの少女たちが自ら直面している貧困や性差別などの過酷な実態を追った映像ドキュメンタリーが来月十五日、世田谷区三軒茶屋二の国際非政府組織（NGO）「プラン・ジャパン」（日本フォスター・プラン協会）事務局で上映される。少女たちの現状を広く知ってもらい、これからの支援に結びつけようとの狙いだ。（小川慎一）

ドキュメンタリーのコンテを書くプラン・ジャパンの少女メンバー（いずれも提供）

プラン・ジャパンは英国に本部を置く国際NGO「プラン」の日本事務局。途上国の住民、特に子どもたちが地域発展の担い手となるように、彼らと対話をしながら学校建設や保健医療体制の整備、農業技術の指導など支援を続けている。

上映会はプランが進めている「途上国の女の子に笑顔を」キャンペーンの一環で開かれる。作品は、性差別や貧困、教育機会の格差といった社会問題をテーマにした十分間ほどの短編六本で、プランが支援するインドの農村の子どもたち約三百人が、映像作家の指導を受けながら、コンテの作成やインタビュー、ナレーション、撮影などを行った。

「Is this life?」という作品では、虐待やレイプにおびえる少女たちを取り上げ、「暗い道」では家計を支えるために売春する少女たちの姿を追った。このほか学校に通ったことのない少女たちが読み書きを学ぶキャンプの様子も描いている。

読み書きなどを学習するキャンプで、少女が参加者にインタビューする一場面

事務局によると、インドの農村部では、新郎側への結婚持参金の負担が大きいため、妊娠中におなかの胎児が女の子だと判明すると中絶するケースが多いという。識字率も女性が圧倒的に低いなど、女性への差別が根強く残っている。

広報担当の久保田恭代さんは「貧しいからといって沈黙するのではなく、少女たち自身が立ち上がって、地域や自分たちの問題を映像の中で訴えている。実態を知って彼女たちを応援してほしい」と話している。

上映は午後五時から同六時半まで。定員四十人で日本語字幕付き。参加無料。事前申し込みが必要。問い合わせは、プラン・ジャパン＝☎03（5481）6100＝へ。

NGOが来月15日 世田谷で短編6本上映